



特集

安心して子育てがしたい

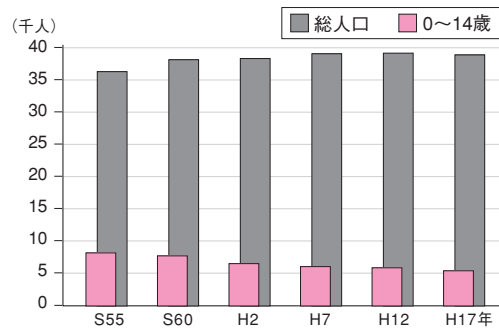
■少子化の進行

女性が一生の間に生むと推定される子どもの数を表す合計特殊出生率は、一貫して低下する傾向が続き、平成17年には1・25にまで達しています。

本市における国勢調査結果によると、0～14歳人口は、25年間に約2,200人減になっていて、総人口に占める割合も20・1%から13・7%まで減少しています。

また核家族世帯（夫婦のみか夫婦と未婚の子どもか）の増加に伴う、夫婦1組当たりの子どもの

瀬戸内市の総人口と0～14歳人口の推移



数は明らかに減少傾向がみられます。

少子化は着実に進行してきて、次代を担う子どもが、健やかに育成される環境の整備が必要となっています。本市では、「瀬戸内市次

今や全国的な課題となっている少子化の問題。「子どもを安心して生み育て、健やかな成長を守ってほしい」と人の親なら誰もが願います。しかし、核家族の増加や地域ネットワークの弱体化など、育児や子育てを取り巻く環境は、一段と厳しさを増しています。安心して子育てができるように、瀬戸内市の育児支援やサポート体制などを紹介しながら、これからの子育てについて考えてみたいと思います。



「安心して子育てができるまち瀬戸内市」のダイジェスト版

世代育成支援地域行動計画」を策定し、子育て支援の施策を総合的に推進しています。本紙昨年5月号に「安心して子育てができるまち瀬戸内市」のダイジェスト版を折り込み、各家庭に配布しました。今回は、その中でどのような取り組みが実施されているのかをご紹介します。

